



# 飯能ロータリークラブ会報



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida

## ロータリーは機会の扉を開く

RI会長 ホルガー・クナーク

2570地区ガバナー 相原茂吉

第3グループ  
ガバナー補佐 西澤長次

Let's make fellows! 友達をつくろう

### 第2928例会 2020. 9. 30

—— 基本的教育と識字率向上月間 ——

天候 晴 (NO. 57-14)

会長 田辺 實 幹事 森 健二

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 大附君、小川君

例会場: ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)973-1661 FAX(042)973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 田辺会長
- ・ソング 手に手つないで 四つのテスト
- ・卓話 沢辺瀨老会員

#### 【会長報告】

大木重雄会員にポールハリスフェロー(3回目)のバッジを贈呈します。

先程入口で、みずほ銀行の西澤支店長よりご挨拶があったと思いますが銀行の方針で会場内に入る事が出来ません。残念ですが本日で退会、現状が変わり次第再入会して頂く予定です。新入会の鈴木(勝)、町田会員には一日も早く皆様ととけ合い楽しいロータリーライフを送って頂きたいと思っております。

現在、例会場がスクール形式となっており、RCの目的である、好意と友情を深め、楽しく意義ある例会とはかけ離れたものとなっています。安全安心を確保しつつ意義のある例会となるよう、アンケートをお願いする事に致しました。ご協力をお願いします。

人間を高める6つの行「六波羅蜜」その4、忍辱。苦難や嫌な事を耐え忍ぶ力を養う。どういう状況の中でも逃げずにじっと耐え忍んでいくとそこに人間の根が生えてくる。5つ目は禅定。座禅を組むという意味だが、自分を振り返る時間をもつという事。自分の心を落ち着かせ、自分自身を振り返る時間をもたなければ人生も仕事も絶対にうまく行かない。バタバタ走っている人は必ずひっくり返る。「心花、静裡に開く」自分一人でじっと考える時間をもつ。その時にバツと閃きが生まれたり、自分自身のあり方、こうではだめだ、こうならねば、という事に気付いたりする。走ってばかりいては駄目。6つ目は智慧。5つの行:布施・持戒・精進・忍辱・禅定から自然に身につくもの。以上6つがお釈迦様が掲げる、人間の心をつくるための行。この6つの行を続けていけば人間を滅ぼす三毒・五鈍使から救われるのである。

1冊の本の要点を話しました。興味のある方は是



非お読み頂きたいと思えます。

#### 【幹事報告】

例会形式についてのアンケートを実施します。推奨案(円卓に十字パネル)は予算が掛かってきます。集計結果を理事で協議し、最終決定します。よろしくお願ひします。地区大会、炉辺会合の出欠提出は本日まで。9/25(金)日高RCから6名が出席され、飯能の会長、増強委員長等と増強についての協議会を開催。2時間があつと言う間に過ぎ、1回で終わらせるのは惜しいとの事で再度春頃に行う事になりました。

◎例会変更のお知らせ

◇所沢中央RC

- ・10/12(月) 振替休会 13公式訪問
- ・11/2(月) 定款により例会取止め
- ・11/23(月) 祝日休会
- ・12/21(月) 振替休会 忘年会
- ・12/28(月) 特別休会

◇狭山中央RC

- 10月より例会場、例会日変更(詳細はHP)
- ・金曜日「ニックス」TEL04-2954-9595

#### 【委員会報告】

◎前年度幹事

代理:(前年度会長)土屋君

「年度報告書」を配付しました。ご協力頂いた各委員長、有難うございました。

【出席報告】無届欠席0

藤原出席向上委員

会員数		当日		前々回修正	
全数	対象	出席数	出席率	出席数	出席率
70名	6名	57名	81.43%		88.57%

#### 【M U】

9/18(第3G) 田辺君、森君

9/23(地区) 中里(忠)君

9/27(地区) 田辺君、森君、吉田(行)君、前島君  
高橋君、和泉君

## 【SAA報告】

### ◎ニコニコBOX

・沢辺先生、卓話よろしくお願ひします。アンケートのご回答もよろしくお願ひします。 田辺会長  
・早退します。 小川君、五十嵐君、大野(康)君  
本日計8,000円、累計額290,000。  
◎7日例会当番は大野(康)、大崎会員です。

## 【卓話】

講師紹介 吉田(健)職業分類委員長  
当委員会は木川、沢辺会員と私の3名構成。今回は「各種学校」に職業分類される沢辺先生にお願ひしました。S15年4月生まれ、80歳。吉島力良さんの紹介で42歳でRCに入会。10年在籍し、埼玉県議会議員、飯能市長を務めるため退会。その後、木川一男会員の紹介で再入会。「(株)飯能自動車学校」代表取締役。明治神宮崇敬会理事長、飯能支部長。埼玉県英霊にこたえる会会長をされています。

## 私たちを取り巻く交通社会について

### 飯能RC 職業分類委員 沢辺 瀨 吉 会員

戦前から輸入されていた自動車は当時大変高級な物で、富裕層が利用していました。自動車の運転手も現在とはケタ違いの高い報酬と社会的身分を与えられていました。戦時中は輸入されなくなり国産車の生産に励んだわけですが、とても米国の自動車にはかないません。それが戦争の勝敗にも影響を与えていたという歴史があります。戦後、経済がだんだん上向きになり自動車も増えていきましたが大体がトラックで、マツダ、ダイハツの三輪トラックをよく目にしました。S25年、トヨタが「クラウン」の製造を発表。これが日本の乗用車生産の草分けとなります。売り出されたのは3～5年後だったと聞いています。こうした中、免許証については試験場だけでは出来ないという事で「指定教習所」を作ります。「飯能自動車学校」の公認はS37年。S40年、約200万台。私はS41年に「飯能自動車学校」に入社します。S50年、約1600万台、平成元年には約3000万台と増加し人口1億2000万人のうち8200万人が何らかの免許を持っているという時代になりました。

交通事故による死者数はS26～46年の20年間で急に増えて、4400人からS44年、16000人、S45年、16765人(第1次交通戦争)。日清戦争の戦死者数は2年間で17000人です。交通安全に対する関心の高まりから「交通安全対策基本法」等が成立。対策の3つの柱として教育(Education)、取締り(Enforcement)、施設改善(Engineering)の「3E」がありました。◇教育：道交法の度重なる改正、若者への教育、教則を公開しテストを行う等の新しいやり方もこの時期生まれます。◇取締り：「交通切符」開始。市原には「交通刑務所」があり、普通に暮らしていた人が事故を起こしたために刑務所に入る、という極めてショッキングな出来事が起きたわけです。それで、事故を起こしたら大変だという事が言われるようになってきた。◇施設改善：圧倒的に不足していた信号機や標識の設置、道路整備を徐々に手掛け、高速道路網も整備します。そういう取り組み等があり、第1次交通戦争はそれなりに減ってきたという事で良かったわけですが、今度は第2次交通戦争が起きてしまいます。S50年代になると、保有台数が増えた事、道路整備に伴って走る距離が増大した事、第2次ベビーブームで若い人達が運転者として参入してきた事等により再び増加、S63年～H7年の8年間で8000人台から1万人超になってしまいました。対策としては、自動二輪の事故が多かったので特別な対策でこれに対応したり、特徴として自動車に乗っている人が死亡するという事で、なかなか定着しなかったシートベルトも着用しなければダメだというふうにして、保険



会社もベルトの有無で給付金に差を付けるようになりました。今ではベルト未着用の方はほぼ居ない状況になってきています。そして、かつて1万人以上居た死者は令和元年には3215人に減ってきたというところまで。

しかし、そんな中で最近注目されているのが高齢者の事故です。65歳以上の方の事故はだいたい横ばい状態なのですが、若い人達が減ってきた事もあり、今では逆転して高齢者の方が多くなったという統計が出てきています。高齢者の事故防止は平成以降、大きな課題になってきているところまで。

平成になり「人と共生する車社会の実現」が広く叫ばれてきておりますが、歩行者優先の徹底もかなり言われており、どこの県が一番それを実行しているか、というような事もあります。

免許制度は、H29年以降、新免許制度に移行し、今まで3つに分かれていた区分が4つに改正されたり、高齢者の更新時講習に実技が入ったり、認知症機能検査も行われてきたりしています。2022年には高齢者講習の関係の改正が予定されているようです。信号無視やスピード違反等の大きな違反については現在でも鴻巣での講習を行っています。さらにレベルの高いものについては運転技能検査を受けて免許の再取得をする、という形をとるようであり、認知機能検査も、警察や教習所でタブレット等を使って簡単に判断が出来るような方式が検討されています。

「高齢ドライバー対策の課題」として◇医学知識に裏打ちされた安全教育や免許行政が必要であろうと検討されているようです。◇高齢ドライバーに常時、安全教育を呼び掛けたり、相談が出来たりする方策も無いものだろうかと言われており、教習所協会の全国組織の中でも今後そういうものを設置していこうかという事が言われているところまで。◇「運転が出来ないと暮らしが出来ない」という地域にお住まいの高齢者が今、非常に問題になっているわけですが、この事は免許行政そのものと併せて、地域の活性化等と絡む大きな課題だと言われています。そして、◇サポカー限定免許。つまり、いろいろな安全装置の付いた車だけに限定して免許を発行するという事も考えられています。

国土交通省では、自動運転技術の発展を4段階に分け、「レベル1」「2」「3」「4」を想定しています。「レベル1」は自動で止まる、前の車に付いて走る、車線からはみ出さない。「レベル2」は高速道路で車線を維持しながら前車に付いて走る等の、自動運転モード。現在はこの「レベル2」までの開発が可能になっています。

完全自動化には、◇技術的なハードルに加えて、◇事故を起こした場合の法的な課題、◇運転者が自分で何もしないでいいのかという問題、◇社会がまだ自動運転を「怖い」と感じている事等が課題としてあります。こういう中で、出来るところから徐々に自動化が進んでいくのではないかと思います。

これからの道路交通については、◇サポカーの普及、◇システム故障時の対応等、新しい知識の教育の必要性、そして、車が変わる事による◇運転免許制度・車検制度の内容の変更があると思います。

日本は環境に適合した自動車の開発に大変優れております。「5年間で排ガスを10分の1に」という高いハードルのマスキー法が米国で1970年に制定されてからは、適合エンジンの開発・改良に懸命に取り組み、世界で最初にその基準をクリアしたのがホンダの「シビック」でした。今ではハイブリッド車や電気自動車が主流となり大幅に燃費が改善され、CO2の排出量はさらに減ってきております。